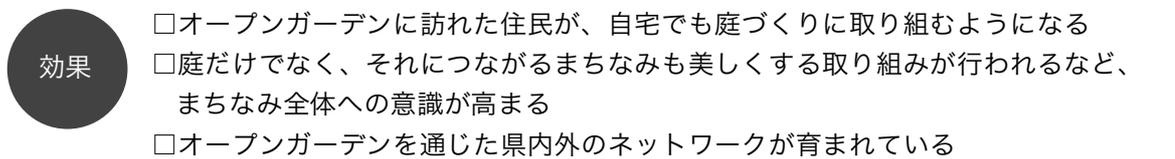
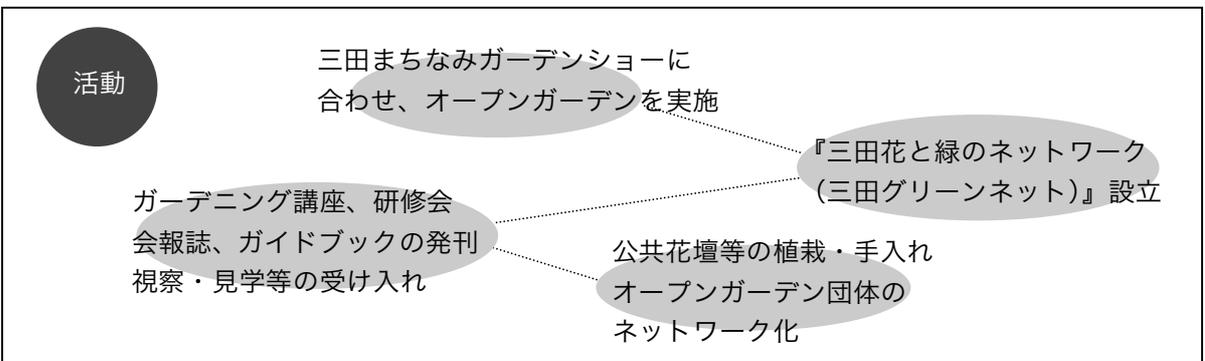
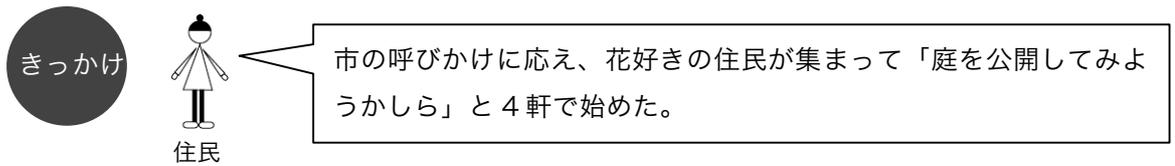




市のまちなみガーデンショーの際に、花好きの4軒が集まって始めたオープンガーデン。それが「三田花と緑のネットワーク」の出発点になりました。自分の庭を花で飾ろうという気持ちは、周りの家や、見に来てくれた人たちの間にも少しずつ広がり、今や100軒を超える庭が参加するまでに成長しています。

さらに、自分たちの家だけでなく、身近な河畔や市民センターなど公共の場にもその活動は広がっています。



| 住民 | 地元小学校・幼稚園 | 行政 |
|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○オープンガーデンの開催 ○講座、研修会の実施 ○緑化推進運動 ○視察・見学等の受け入れ ○会報誌の発行、ガイドブックの発刊 | <ul style="list-style-type: none"> ○まちなみガーデンショーのガーデンコンテストに参加 ○ガーデニングクラブの誕生 | <ul style="list-style-type: none"> ○三田まちなみガーデンショーの開催 ○オープンガーデン巡回バスの運行 ○公共緑化のための花苗の提供 |

まちなみガーデンショーの呼びかけに応じて、花の好きな住民4人がオープンガーデンを始めます。その中には、マンションのベランダもありました。

お庭公開してみようかな

見てもらうのも素敵かも

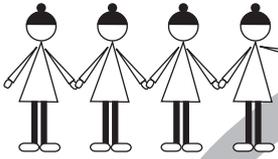
お庭の公開してみませんか？



第3回まちなみガーデンショー

まちなみガーデンショーは、市民と企業・行政が協働して、花と緑の都市景観を生み出し、快適な環境づくりの輪を広げようと始まりました。

花いっぱいになるといいね



三田花と緑のネットワーク

これを機に、花好きの家が集まって三田花と緑のネットワークを立ち上げます。翌年には、さっそくまちなみガーデンショーを協賛します

第1回オープンガーデン お庭数-4軒

2冊目出ました

ガーデニングの輪が広がるように、さまざまな活動に取り組んでいます。講習会の開催やガイドブックの作成、先進地への視察にも行きました。近年は、視察を受け入れる機会も増えています。

ガーデニング講習会

お庭紹介します

ガイドブック II

ガイドブック作成

見習うところいっぱい！



視察の受け入れ

第2回オープンガーデン お庭数-84軒

まちなみガーデンショーの際には、庭を回れるように、市では巡回バスを用意しています。

オープンガーデン回ります

巡回バス乗り場

第4回オープンガーデン お庭数-125軒

庭だけじゃなくてそこにつながるまちなみも

地域緑化活動

自分の庭から始まった活動は、みんなが使う場所へと広がっていきます。川の堤防、駅前コンテナ、市民センター周辺…。まちなみがどんどんきれいになっていきます。

写真展

花と緑のまちづくりフォーラム

兵庫県内の他のオープンガーデングループとの交流や、オープンガーデンの効果を知ってもらおうとフォーラムを主催しました。

公共花壇の植替え

兵庫オープンガーデンネットワーク

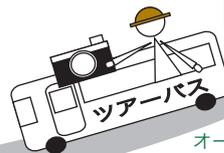
フォーラムをきっかけに、県内の9団体とネットワークを設立します。中心となり活動し、組織の広がりにも貢献しています。

ありがとう

きれいですね

近隣の市にも広がりを見せ始め、オープンガーデンをする庭が増えています。

やり方を学ぼう



オープンガーデンに取り組んでみようと考えている人を対象とした「講座バスツアー」を始めました。

ON AIR

今日のテーマは花の手入れ



地元のラジオ番組に出演しています。草花の育て方について、市民との交流につながっています。

第8回オープンガーデン お庭数-118軒

優秀賞

これらのさまざまな活動が認められて、賞も受賞することができました。

子どもたちもまちなみガーデンショーのガーデンコンテストに参加するようになりました。

□景観まちづくりの3原則からみた成功のポイント□

原則1 《地域性》 歴史・文化・産業・意匠・構法・素材などの地域資源の再発見

●最も身近なまち空間＝自宅の庭に着目した景観まちづくり

・三田市が主催するまちなみガーデンショーへの参加の呼びかけに応じ、4軒の花好きが「庭を公開してみよう」と始めたオープンガーデン。自分の庭で始められる比較的手軽な活動ですが、そこには、一軒の庭から向こう三軒両隣、そこから五軒向こうと広がれば、自分たちが暮らす街並みもきっと綺麗になるはずという思いがありました。

>>住宅は、まちの景観を構成する最も身近な場所のひとつであると同時に、住民にとっては最も当事者意識を持って景観まちづくりに取り組める場所です。住宅から始められ、それが連鎖していくことにより相乗効果を発揮する景観まちづくりシーズに着目してみましょう。

●日常生活に身近な公共空間の景観づくりへの発展

・オープンガーデンをきっかけとする三田花と緑のネットワーク（三田グリーンネット）の活動は、それぞれの私有空間（庭など）にとどまらず、武庫川の河畔、新三田駅前、市民センター周辺など、日常的に市民が利用する空間の植栽管理へと広がっています。市内にはこのような身近な公共空間の緑化に取り組む市民グループが約90ほどあり、行政もその活動を支援しています。

・関心と活動は、まちなみを構成する重要な要素である街路樹の管理にも向かっています。季節の移ろいに応じて多彩な表情を見せる樹木の魅力を市民に広く認識してもらえよう、毛虫や落ち葉などへの対応も含め、自主的な勉強会を重ねており、行政への提案なども行っています。

>>自宅の庭などの私有空間の景観づくりに取り組むうちに、景観の公共性に気づくことで、公共空間の景観づくりにも主体的に関わる姿勢が芽生えます。



市民センター周辺の植栽管理



武庫川河畔の緑化活動

●花と緑にあふれたまちなみが地域の財産として定着していく

・オープンガーデンを始めて8年ほどが経過し、ガーデニングを楽しむ人たちが増えるとともに、それぞれの庭の成熟も進み、庭の花や緑が通りを彩るようになっていきます。花と緑にあふれたまちなみが地域の個性、財産として人々に認識されていくようになります。例えば、地域の小学生が「まちなみ学習」の一環として、オープンガーデンのひとつを訪問したことがありますが、これなどもそのような認識の表れのひとつと言えるでしょう。

>>趣向を凝らしたガーデニングなどの活動が、ある広がりを持ちながら継続的に展開されることで、そのまちの新しい財産として定着していくことが期待できます。その財産を大切に継承していこうとすることは、その地域に根ざした景観まちづくりだと言えるでしょう。

原則2《推進体制》 早期からの適切な行政・市民・専門家のコラボレーション

●活動の礎を築いたスピード感ある組織化

- ・2000年5月、最初にオープンガーデンに取り組んだのは4軒でしたが、その半年後には三田グリーンネットを立ち上げ、翌2001年5月には、まちなみガーデンショーに協賛として参画し、オープンガーデンには84軒が参加するに至っています。このスピード感ある組織化と、メンバーの交遊ネットワークを活用した参加者の拡大が、その後の活動を成功へと導く礎となったと言えるでしょう。
- ・その後も着実に会員数を伸ばしており、約8年を経た現在、個人会員は220人、法人会員は20社を数えており、花とみどりの景観づくりの推進に大きく貢献しています。また、会員の居住地は三田市内に限らず、神戸市北区、西宮市など、緩やかな広がりの中でネットワークが形成されています。
 - >>ひとりひとりの活動意欲を重ね合わせながら景観まちづくりを進めていくためには、活動の組織化を図ることが有効になります。ある目的を共有する組織とすることで、社会的・公共的な立場からの活動や、行政等との協働などにも取り組みやすくなります。

●多彩な活動を支える専門部会の設置

- ・三田グリーンネットでは、活動の内容に応じた専門部会を設置して、個々のオープンガーデンにとどまらない多彩な活動を展開しています。現在、下表に示す通り、「グリーンフィンガーズ」、「樹のクラブ」、「バラクラブ」という3つの専門部会があり、それぞれ熱心に活動を展開しています。
- ・街路樹の剪定等に対する提案を市が受け止め、部分的に街路樹の剪定方法を変更するモデル的な試みも行われるようになってきました。それぞれの樹種が持つ本来の魅力を存分に活かしながら、まちの雰囲気に合った街路樹の景観づくりへ向けた取り組みが動き出しています。

| 専門部会 | 活動概要 |
|------------|--|
| グリーンフィンガーズ | ・花苗の育成活動や講習会の開催 ・EM（有用微生物群）を活用した園芸の展開 等 |
| 樹のクラブ | ・里山の実態や管理等の学習 ・街路樹の管理や街路樹を活かした景観形成等の学習・提案 等 |
| バラクラブ | ・バラの栽培 ・講師を招いたバラの手入れについての講習会 等 |

- >>活動の多様性の確保や専門性のある活動の展開には、専門部会や分科会を設置して活動を深化させたり、あるいは得意な領域が異なる組織間のネットワーク化を図ることが有効です。
- >>ただし、過度な細分化は、特定の個人に多くの兼務を強いることになったり、事務が繁雑になるなどの弊害も考えられることに留意が必要です。

●行政と住民との信頼関係の構築

- ・三田グリーンネット発足のきっかけが、三田市の主催するまちなみガーデンショーへの参加呼びかけであることから明らかな通り、当初より住民と行政の協調的・協働的な関係がありました。その後、グリーンネットの活動が成長するに連れ、その協調・協働の信頼関係はますます強まり、協賛するまちなみガーデンショーでも中心的な役割を担っています。かつて三田市都市施設整備公社が主催していた園芸セミナーで講師を務めたり、まちなみガーデンショーの企画の一環として寄せ植え講習会を実施するなど、行政と連携した花と緑のまちづくりを推進しています。

- ・また、まちなみガーデンショーだけでなく、川の堤防、駅前、市民センターなど、市民の暮らしに身近な公共空間の緑化推進活動も受け持っており、三田市が標榜する「協働のまちづくり」を体現するような関係が構築されています。三田市では、このような住民の意欲を身近な公共空間の緑化につなげる取り組みが積極的に展開されています。

>>景観まちづくりにおいて、住民と行政との協調的な信頼関係を築き上げるには、住民が思う存分に活動できる景観づくりのフィールドを任せることが有効です。小さなフィールドで構いません。住民の努力が目に見える形で結実する経験を積み重ねることが大切です。

●オープンガーデンを介して広がる花と緑のまちづくりのネットワーク

- ・オープンガーデンを活かしたまちづくりに取り組む兵庫県内のグループの交流と、美しい景観まちづくりに対するオープンガーデンの貢献を知ってもらうことを意図して、三田グリーンネットの主催により「兵庫花と緑のまちづくりフォーラム」が開催されました（2003年）。このフォーラムを契機として、「兵庫オープンガーデンネットワーク」が組織されています（2004年）。このネットワークの設立・運営において、三田グリーンネットが中心的な役割を果たしています。
- ・また、オープンガーデン等の活動を介して、市民の庭づくりやまちなみに対する関心、美しい景観まちづくりへの参加意識が確実に醸成されてきています。地域の子どもの対象とした寄せ植え講習会を契機として幼稚園にガーデニングクラブができるなど、花づくりの輪も広がっています。

>>美しい景観は、それを見る人により影響を与えますし、美しい景観に接する経験が、美しい景観を求める感性や、景観まちづくりへの主体的な参加意識を育てます。また、そのような効果を持つ活動を展開していることを周知することも重要となります。活動団体間の連携を図ることで、活動の活性化やPR効果の増大などが期待できます。

原則3 《実現性》 計画の実現のための資金や手法、運営等に対する細やかな配慮

●庭づくりを楽しむ・花と緑を楽しむ・交流を楽しむ——活動のカギは楽しみをつなぐボランティア

- ・オープンガーデンのかけがえのない資源は、手入れの行き届いた個性豊かなたくさんの庭です。必ずしもオープンガーデンのためにガーデニングに取り組んでいるわけではありませんが、庭づくりのための日々のたゆまぬ努力や、オープンガーデン時の来訪客のもてなしなど、楽しみながら自ら行動する姿勢が、この景観まちづくりの原動力になっています。近年は視察の希望なども増えていますが、花と緑のまちづくりが各地に広まることを夢見て、それらも積極的に受け入れています。
- ・まちなみガーデンショー開催時は、多くの会員が、オープンガーデンパスポートの販売、講座バス・巡回バスの同乗ガイド、オープンガーデン巡りの各コース案内など、来訪者のもてなしと円滑なイベント運営に不可欠なボランティアスタッフとして活躍しています。
- ・オープンガーデン開催時には、公開されている庭が一目でわかるように、フラッグやプレート、オープンガーデンパスポート（案内マップ）など、オープンガーデンを介した交流を支える様々なグッズも会員の手づくりで製作しています。

- ・オープンガーデンをはじめとする様々なボランティアな活動を支える上で不可欠なのが、オープンガーデン巡り等を楽しむ来訪者の存在です。花と緑を楽しみ、交流を楽しむ来訪者の歓声や賛辞、感謝の言葉、再訪などが、活動に取り組む人たちにとって大きな励みになっています。

>>景観まちづくりには主体性を持って自発的に関わるのが大事です。特に、趣味や娯楽の延長のような活動は、楽しみながら取り組むことが活動も景観も豊かにすると言えるでしょう。

>>また、自らが景観づくりに取り組んでいなくても、景観の鑑賞者として積極的に関わることで、景観まちづくりの推進に貢献することも可能です。



交流を育むオープンガーデン



バラに包まれたガーデンコンサート



活躍するボランティアスタッフ



通りにあふれ出す庭の彩り



子どもたちも庭から学ぶ



交流を支える洒落た手づくりグッズ

様々なボランティアが紡ぎ出す豊かな景観と交流

●会費による組織としての活動の運営

- ・三田グリーンネットの運営・活動に要する経費は、そのほとんどを会費収入に負っています（個人会員は2,000円/年、法人会員は10,000円/年）。会則において、会の運営・活動経費には会費・寄付金を充てる旨を定めています。
- ・その他の収入としては、兵庫県ボランティア活動助成、チャリティやバザー収益などがあります。

>>組織として景観まちづくりに取り組むために会費を徴収する方式は、比較的、導入しやすく、また合理的です。この場合、金額の多寡に寄らず、組織の活動目的や活動内容を明確にした上で、透明性を確保しながら適切に徴収・運用することが大切です。

●来訪者をもてなすパスポートを通じたチャリティの試み

- ・グリーンネットも中心的な役割を担っているまちなみガーデンショー実行委員会では、まちなみガーデンショーに合わせて開催しているオープンガーデンへの来訪者に役立つよう、オープンガーデンに参加している庭を紹介する「Open Garden Passport（オープンガーデンパスポート）」という案内マップを作成、販売しています。
- ・2007年のオープンガーデンでは、「ささやかであってもチャリティとして社会に貢献」をテーマのひとつに掲げ、このパスポートの販売代金の一部を花とみどりのまちづくりに役立つ目的でチャリティ募金とする試みがなされています。初めての取り組みでもあり、実施する側にも戸惑いもあ

りましたが、好意的に迎えられました。チャリティに協力した証に緑色のリボンを配布するなど、細部にもこだわり、楽しみながら社会貢献に取り組んでいます。このチャリティをもとに「まちなみ緑化基金」が設けられ、「郷の音ホール」隣接の「姉妹都市の丘」にソメイヨシノが3本植樹されました。

>>活動が地域のまちづくりに幅広い波及効果を持つ段階に到達すれば、例えば、寄付金等を通じてその活動を支援することも、直接的に活動に参加するのと同様、景観まちづくり活動の一端を担うこととなります。参加の多角化を図る視点も必要になってきます。

>>また、景観を楽しむ人たちが、その景観を創出する活動を寄付などの形で支援することも、このような景観まちづくり活動の趣旨に適った財源確保の一つの方策となり得るでしょう。

●様々なメディアを活用した情報の発信と共有

《会報》

- ・会の設立後、会員間の情報共有等を目的として会報の発行を始めています。以後、コンスタントに発行を重ね、2008年3月現在、第24号まで発行されています。第20号の発行を記念した「チャリティ1 Day雑貨Shop」なども開催されています。

《オープンガーデンガイドブック》

- ・オープンガーデンを実施している庭を紹介するガイドブック「グリーンページⅠ」を2002年に発刊しています。オープンガーデンの概要と位置図、オープン期間、連絡方法等の情報が美しくレイアウトされたガイドブックは、訪問者にとって便利であるのはもちろん、庭を開放する側にも有用なツールでした。早くも2005年に「グリーンページⅡ」が発刊されています。

《ホームページ》

- ・2002年10月、「グリーンページⅠ」の発刊に合わせて、三田グリーンネットのホームページを開設しています。イベント告知をはじめとするお知らせ、活動の記録、ガーデン紹介、掲示板など、情報の提供や共有、交流などに有意義に活用されています。

《地元FM局プログラムなど》

- ・2005年11月に、地元のFMラジオ局「HoneyFM」で、三田グリーンネットのメンバーが出演し、庭や花木の手入れ、育成方法などを紹介するプログラム「MY SWEET GARDEN」が誕生しました。HoneyFMが運営するブログでは、放送で取り上げられた庭の写真が紹介されています。
- ・また、オープンガーデンの取り組みや庭のいくつかが、雑誌に掲載されたり、NHKをはじめとするテレビ放送で紹介されたりする機会も少なくありません。



これまでの会報（イベントでの展示）



「グリーンページⅡ」



会のホームページ

>>景観まちづくり活動を周知して関心を喚起したり、活動を円滑に進めたりする上で、様々なメディアを活用した情報を発信・共有が役立ちます。会報や冊子の発行、ホームページやブログの開設、地域FM局やCATVとの連携など、活動に応じた方法を検討してみましょう。



自分たちの住宅に隣接する遊歩道を、花いっぱいのにしようと活動を始めました。それぞれ担当の区画を、自由な時間に、好きなレイアウトで、責任を持って管理しています。

花を植えることから始まった活動は徐々に広がり、住民同士はもちろん、道行く人たちとのふれあいや、子どもとお年寄りとの交流などを育んでいます。季節の花で彩られた遊歩道は、花を楽しむだけでなく、地域コミュニティづくりの場ともなっています。



人



住民



行政



子ども会



きっかけ



住民

ニュータウンの集合住宅に住む住民たちが会を結成し、隣接する市の歩行者専用道路沿いの空地进行を借り受けて潤いある花壇とし



活動

「すみれ会」「緑の協力会」を結成し、市から空き地を借り受け、花壇づくり

「すみれ会通信」発行
バラの剪定講習会実施

子ども会が参加
近隣のお年寄りに花届け

小学校の総合学習の題材になる
各地からの見学者の受け入れ



効果

- 身近な道路空間が季節の花で彩られ、歩行者に喜ばれている
- 地域住民間にコミュニケーションが生まれ、コミュニティづくりに役立っている
- 生ゴミの堆肥化などを通じた環境面での効果や、子どもたちの活動や授業を通じた教育面での効果など、多方面で効果的な役割を發揮している

住民

- 住民が住宅地別に「すみれ会」と「緑の協力会」を結成し、土地を借り受けて花壇づくり
- 原則、自己負担で各自が花植えや管理を実施
- 「すみれ会通信」の発行・ホームページの開設
- バラの剪定講習会の実施
- 小学校の総合的な学習の時間の一環で訪れた小学生にスライドで活動を解説

子ども会

- 花壇づくりに参加
- 近隣のお年寄りとの交流

行政

- 市の歩行者専用道路沿いの土地を貸す（道路工事施行承認）
- 様々な機関等が実施している助成制度などの情報提供

ガーデンシティコープ金剛東の住民で「すみれ会」を、隣接する津々山台第2住宅の住民で「緑の協力会」を結成し、市から道路沿いの空き地の利用承認を受けて、花壇づくりに取り組むことにしました。

グループ作りませんか？
それなら市から土地貸します



津々山台 第2住宅

花を植えてみようか？

家の前がさみしいな

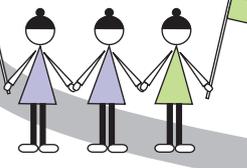


ガーデンシティコープ金剛東

ニュータウンの一面につくられた集合住宅の目の前を通る歩行者専用道路が殺風景なのを寂しく思った住民が、沿道に花を植え始めます。

1998

花を植えよう!!



住民がそれぞれ担当の区画を決め、自由な時間に、好きな花をレイアウトし、かつ責任を持って花壇づくりを行っています。費用は自己負担を原則としています。

どうぞどうぞ

見学させてください



いろいろな場所から見学者が訪れます。活動がコンクールなどで表彰される機会も増えてきました。

花苗です



市から花苗の提供を受けたこともありました。



情報をみんなで共有するために通信を発行しています。

どこでもどの会



各家庭から出された生ゴミを活用して堆肥をつかったり、敷地内の落ち葉を集めて腐葉土をつくるなど、環境に配慮した土づくりに取り組んでいます。

すみれ会 & 緑の協力会

子ども会も花壇づくりにデビューし、一緒に作業を始めました。

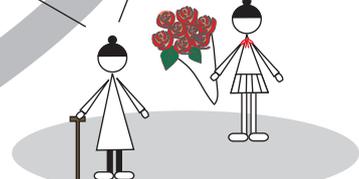
バラの講習会



バラの育て方や剪定の仕方などを学べる講習会を開催します。

お花が咲きました！プレゼント!!

ありがとう きれいね



子ども会や婦人会では、花壇の花が咲くと花束にして近隣のお年寄りに届けています。

ありがとう!

心が和むね

総合的学習の時間



小学校の総合学習の題材となり、自分たちの取組みについて話をしました。

花の散歩道を中心として、活動と交流が広がっています。

□景観まちづくりの3原則からみた成功のポイント□

原則1《地域性》 歴史・文化・産業・意匠・構法・素材などの地域資源の再発見

●「庭」のように身近な道路空間での潤いある花の景観づくり

- ・この住宅地が新たに造成された当初、暮らしに最も身近な公共空間のひとつである歩行者専用道路は、下の谷間を走る国道側に垣根を連続させ、その前に点々と高木や部分的な低木帯が設けられている状態で、土の箇所には雑草が生い茂り、年数回の市による草刈では追いつかず、通る人も少ない状況でした。ここに住み暮らす住民として、せつかくの空間を活用し、まちの美観の向上と地域コミュニケーションづくりに役立てることができないかと考え、四季折々に花のある綺麗な道路空間をつくることができればと思ったことが、この活動の契機となっています。
- ・歩行者専用道路は市道であり、所有・管理者は富田林市ですが、そこに暮らす住民たちにとっては「庭」と言ってもよいような、親密な空間です。そのような身近な場所だからこそ、自主的に景観まちづくりに取り組み始めることができました。
- ・保育園への送り迎えや、スーパーへの買い物などの動線として使いやすい立地だったこともあり、花に彩られた歩行者専用道路は、多くの人の日々の暮らしの中で親しまれる空間となりました。
 - >>自分の生活に最も身近な空間を対象とした景観づくりは、取りかかりやすく、また、その成果を自らが享受しやすい取り組みです。自宅の庭はもちろん、集合住宅地の共有空間などもその対象になりますし、道路や駅前広場などの公共空間も含めて考えられるでしょう。そのような身近な場所から景観づくりに取り組み始めてみましょう。
 - >>実際に住み、暮らし、働く立場から、身近な場所の景観や環境がどうあってほしいか、と考えることにより、景観まちづくりへの関わり方が見えてくることがあります。

原則2《推進体制》 早期からの適切な行政・市民・専門家のコラボレーション

●住民の意欲や行動力を行政がうまく受け止め方向づける

- ・身近な歩行者専用道路（市道）を潤いある景観にしたいと考えた住民たちが、沿道に花を植え始めました。この時点では、市の許可を得るなどの手続きを経っていませんでしたが、協議を重ねる中で、市の道路管理担当職員に花壇づくりを通じた景観形成の意義が理解され、住民たちに対し、活動を組織化した上で、許可を得て花壇づくりを行うよう、勧めがありました。
- ・その後、多少の経緯はありましたが、住民たちは活動グループを組織し、市から「まちの緑化に貢献するための植樹、花壇等の設置と維持行為」を名目とする「道路工事施行承認」を受けて花壇づくりに取り組むようになりました。承認は単年度限りのものなので、毎年、更新手続きを行っています。



花壇づくりに関する道路工事施行承認の表示

- ・歩行者専用道路ですが、非常時には消防車等の緊急車両が通行できるようになっている必要があります。花壇がその通行の妨げにならないようにするとともに、緊急車両の通行時には沿道の花壇内を走行してもよいことなどを、花壇づくりの承認に先立って市と住民とで確認しています。
- ・この地区をよき先行事例として、市内の他地区でも「道路工事施行承認」を通じた住民による身近な環境・景観づくりの取り組みが行われるようになってきています。

>>住民たちの意欲や活動の意義を行政が柔軟に受け止めることで、公共空間の景観形成に住民等の意欲やアイデアを活用することが可能となります。例えば、この事例のように、景観まちづくりの対象となる場所を利用しやすくする、その場所で景観まちづくり活動を行う主体として認知するなど、行政の判断を通じて多様な景観まちづくりの推進が期待できます。

●住宅地ごとに組織したグループによる連続的な景観創出

- ・歩行者専用道路の道路使用許可を得るためのグループは、歩行者専用道路に面する住宅地ごとにつくられています。それぞれの住宅地が面する沿道の花壇づくりを担当して、道路に沿った連続的な花の景観を創出しています。自分の家に近い場所を担当することで、花壇づくりに対するやる気も出ますし、その成果である花に溢れた美しい景観を楽しみやすくなります。
- ・また、住宅地ごとのグループとしたことで、花づくりの活動から住宅地内のコミュニティ醸成にも活動が展開されています。「すみれ会」も、花づくりにとどまらず、住宅地内に婦人会や福祉委員会を立ち上げ、居住者の交流の輪を拡げる活動を展開しています。

>>景観まちづくりを推進する組織は、その活動内容や目的に応じて自由に構成して支障ありませんが、段階的に開発された住宅地などにおいては、コミュニティや自治の観点、実際の活動場所との関係などから、住宅地（開発主体や開発時期）ごとに組織するのもいいでしょう。

●花壇の連続性を担保する工夫

- ・ひとりひとりが花壇の小さな区画を分担しながら、それがとぎれずに連続することによって、歩行者専用道路に沿った花の景観が成り立っています。従って、どこかひとつの区画が荒れてしまったりしては、沿道の景観全体が台無しになってしまいます。管理状態に問題がある時には、担当者に改善を促したり、転居等でメンバーが抜ける時には、その区画を誰が引き継いで管理するかをきちんと決めたりすることによって、花壇の連続性がとぎれないような推進上の工夫をしています。

>>花壇や生け垣のような花やみどりの景観でも、建物の意匠などの景観でも、良好な景観は、連続的なまとまりとして目に入ってくることにより、その印象や心地よさが大きく高まります。個々の景観形成の努力が相乗効果を発揮するよう、景観の連続的なまとまりを意識することが大切です。

●「花の散歩道」を利用する人たちの励ましが活動を後押しする

- ・ボランティアによる花壇づくりを支える上で欠かせないのが、そこを通る人たちの笑顔や励ましの声です。「花の散歩道」を愛で歩く人たちがいて、感謝や励ましの言葉を受けることが、花壇づくりに取り組む人たちに大きな推進力を与えています。花壇を荒らすような心ない人もいないわけではありませんが、そのようなことに対する怒りや悲しみを乗り越えさせてくれるのも、やはり通りかかる人たちの感謝や励ましの声なのです。
- ・見方を変えれば、「花の散歩道」を歩き、花壇の世話をしている人たちに「花壇を楽しみにして回り

道をしている」などの声をかけることも、「花の散歩道」の景観づくりに少なからず貢献していることになると言えるのです。

>>実際に景観まちづくりに参画することだけでなく、さまざまな形で景観まちづくりの推進に貢献することができます。例えば、美しい景観や心地よい環境を維持している活動に対して、賛辞や感謝の気持ちを伝えることなども、景観まちづくりの推進に寄与できるのです。

原則3 《実現性》 計画の実現のための資金や手法、運営等に対する細やかな配慮

●ボランティアによる楽しみながらの花壇づくり

- ・「花の散歩道」の花壇の管理・運営は、「すみれ会」と「緑の協力会」の会員のボランティアによって成立しています。年間を通して必要となる手入れの労力、土壌改良や花の種・苗等に要する費用などは、会員の自己負担により賄われています。
- ・ボランティアで活動を進めるのですから、楽しくなければ続きません。「花の散歩道」の花壇づくりは、それぞれが担当する区画（花壇の一部）について、自由な時間を使って、自由なアイデアに基づいて花壇づくりを楽しむようにしています。デザインに凝った花壇、シンプルにまとめた花壇、花の種類にこだわった花壇、思い出の風景の再現をコンセプトにした花壇など、バラエティに富んでいます。その統一的・均一的でないことの魅力が、花壇に沿って歩く楽しみを増しています。

>>景観まちづくり活動を展開するにあたって、活動資金やマンパワーの確保は重要なポイントです。例えば、活動が何にも増して自分にとっての大きな楽しみであるというような場合には、自己負担（ボランティア）を中心に始めることも合理的です。その場合、楽しみながら取り組むことが、活動を豊かにする上で重要だと言えるでしょう。

>>ただし、活動が大きくなっていったり、公共性が高まっていったりした場合、全てを自己負担で対応するのは、必ずしも適切ではなくなる場合もあることに留意が必要です。



ボランティアで育む「花の散歩道」の景観

●幅広い活動助成金の活用を視野に入れる

- ・原則として、花壇づくりに要する費用は、各自の自己負担で行っていますが、資金面でのサポートが得られるに越したことはありません。「すみれ会」や「緑の協力会」では、様々な機関が行っている活動助成制度にできるだけ申し込むように心がけています。これまでに、みどり基金による公益信託グリーンプログラム21、(財)花博記念協会による助成事業などの支援を受けています。
- ・助成制度に関する情報を収集し、応募手続等を行うには、かなりの労力を必要としますが、ここでは市の担当職員が助成に関する情報提供をしてくれており、それが非常に役立っています。

>>ボランティア型の活動の場合、活動資金を確保する負担を軽減するためには、行政や各種機関が実施している様々な助成制度を活用することも効果的です。

>>行政は、住民等による景観まちづくり活動を資金面でサポートすることも期待されています。業務委託や補助制度によって支援することも考えられますし、諸機関が実施している活動助成制度の活用を促すことも支援のひとつと言えるでしょう。行政が、助成制度に関する情報提供や申し込みに関するアドバイスなどを行うことも有効な支援策となります。

●生ゴミの堆肥化や落ち葉の腐葉土化などの環境にやさしい資源の再利用

- ・よい花壇づくりには、よい土づくりが欠かせません。市販の肥料や土壌改良材なども用いていますが、生ゴミを堆肥にしたり、集合住宅地内の樹木の落ち葉を腐葉土にしたり、資源の再利用なども行っています。環境にもやさしく、土づくりのコストも下げられる、一石二鳥の工夫です。

>>身の回りの資源や材料をうまく利用しながら景観まちづくりを進めることは、環境やコスト面での効果も期待できますし、また、その土地に根ざした景観や活動スタイルを創出する端緒となることなども期待できます。

●コンクールへの応募等を通じた活動の活性化

- ・花のまちづくりを表彰するようなコンクールへの応募を通じて、活動の活性化を図っています。この地区の活動の特徴は、大小様々な区画（花壇）をメンバーが分担して受け持ち、そこで各自が自由に楽しんでいる点です。従って、魅力的な花の景観づくりのためには、各自のやる気を保つことが重要となってきます。コンクールへの応募は、ひとつの目的設定になりますし、会員にも適度なプレッシャーがかかるので、活動を活性化する効果があります。また、もしコンクールに入賞すれば、大きな達成感につながります。



「第14回全国花のまちづくりコンクール」で団体部門優秀賞を受賞（賞状とトロフィー）

- ・同様に、テレビや雑誌等のメディアで紹介されたり、シンポジウム等で発表したりする機会も、会の活動を活性化する上で役立っています。特に、活動の初期段階で地域のタウン誌などで紹介されたことは、活動に勢いを与え、軌道に乗せる上で役立ちました。

>>景観まちづくり活動の内容に応じた様々なコンクールがあります。それらに応募することで、活動の目的を再認識したり、活動を活性化したりすることができますし、受賞すれば、活動に対する大きな励みとなります。また、コンクールには、同様の趣旨で活動している他の団体等も応募していますので、それらとの新たな交流を築くことも活動の活性化に役立ちます。

●ホームページの開設や「すみれ会通信」の発行による情報の交換と共有

- ・会の活動紹介や会員間の情報共有を図るため、2001年に「すみれ会」のホームページを開設しています。また、2003年より、従来の事務局からのお知らせや案内などを「すみれ会通信」という形に改め、いっそうの情報の交換と共有を図っています。「すみれ会通信」は、2008年3月現在、第11号まで発行されています。
- ・ホームページは、会の外部に対する情報提供や交流面でも非常に有効に機能しています。例えば、高槻市の小学生が、総合的な学習の時間における学習の一環として「すみれ会」の活動を調べに来たケースでも、「緑の多いまちにするために道路脇に花を植えている地区」を検索し、「すみれ会」のホームページを知ったことがきっかけとなっています。

>>景観まちづくり活動に対する関心を持ってもらったり、活動を円滑にしたりする上で、通信やニュースの発行・配布、ホームページやブログの開設などによる情報発信は有効です。活動に参加する仲間間で情報を共有したり、意識を高めたりすることが、活動の継続や活性化につながります。

>>通信やニュースなどの紙媒体による情報発信は、読みやすく、資料としてもストックしておきやすいというメリットがありますが、一方で、印刷・配布に一定のコストを要するため、その資金の確保が課題となる場合があることに留意が必要です。また、広範な情報発信や交流の促進という点では、ホームページやブログを開設する方が有利だと言えるでしょう。



「すみれ会通信」第1号（2003年7月発行）



「すみれ会」のホームページ

住民が植えて育てて未来に伝えるあじさい街道

03

高知県高知市（旧春野町）



用水路沿いの歩道に全長5kmにわたってあじさいが植えられたあじさい街道。花好きの住民が植えたことに始まり、今でも住民が中心となって手入れしています。

毎年6月に開催される「あじさいまつり」には、地元の人たちだけでなく、たくさんの観光客も訪れ、季節の花を楽しみます。

このあじさいの風景を将来にわたって伝えようと、地に足の着いた息の長い取り組みが進められています。



老人クラブ



高校



自治会



行政

きっかけ



老人クラブ

昭和50年、老人クラブの花好きの4~5人が、水路沿いに10数本のあじさいを植えた

活動

水やり・剪定・病害虫防除
街道の清掃

あじさいまつり・
あじさいウォークの開催
直売市の開催

カラー舗装・手すりの設置
あじさいの郷公園の整備
東屋の設置
新あじさい街道の計画・整備

衰微傾向の見えるあじさいの
回復に向けた長期を展望した
住民主体の取り組み

効果

- 直売市などへの参加により出店者が生き甲斐を感じる
- 通勤通学者の心をいやす景観となっている
- 町内にミニあじさい街道やコスモス畑ができるなど、花いっぱい運動の拡大
- 観光客数の増加
- ふるさとの宝物となる風景として後世に伝えたいという意識が育まれている

老人クラブ・自治会

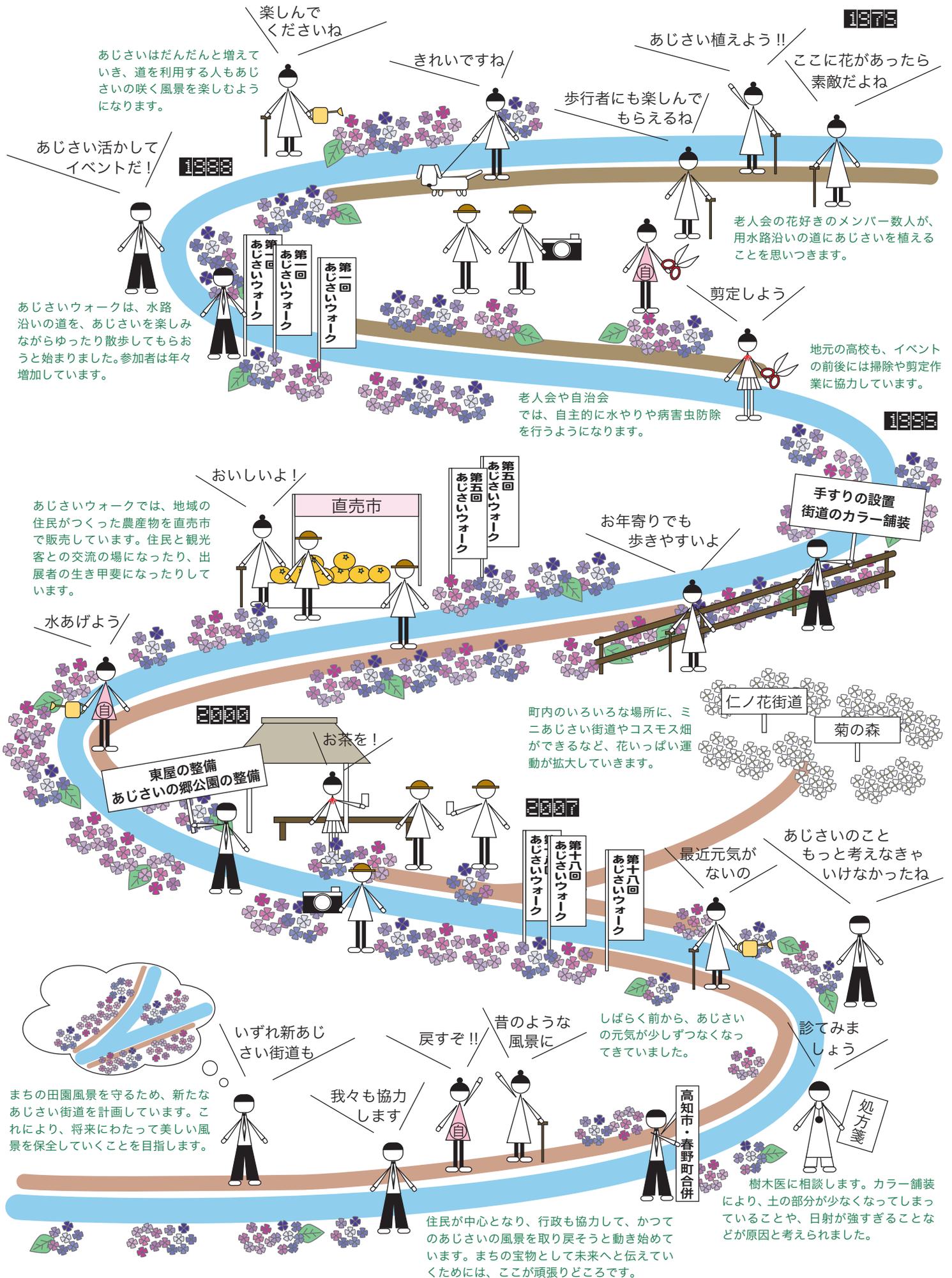
- 定期的な水やり・病害虫防除、回復に向けた手入れ
- 「あじさいまつり」前後の街道の掃除・選定作業
- 「あじさいウォーク」前後の直売市の出店

地元高校

- 「あじさいまつり」時期の街道の掃除・選定作業
- 「あじさいウォーク」で飲み物配布

行政

- 街道のカラー舗装、手すりの設置
- 東屋、あじさいの郷公園整備
- 「あじさいまつり」、「あじさいウォーク」の開催
- 新あじさい街道の計画
- あじさいの回復に向けた支援



あじさいはだんだんと増えていき、道を利用する人もあじさいの咲く風景を楽しむようになります。

あじさい活かしてイベントだ!

あじさいウォークは、水路沿いの道を、あじさいを楽しみながらゆったり散歩してもらおうと始まりました。参加者は年々増加しています。

楽しんでくださいね

きれいですね

歩行者にも楽しんでもらえるね

あじさい植えよう!!

ここに花があったら素敵だよ

老人会の花好きのメンバー数人が、用水路沿いの道にあじさいを植えることを思いつきます。

剪定しよう

地元の高校も、イベントの前には掃除や剪定作業に協力しています。

老人会や自治会では、自主的に水やりや病害虫防除を行うようになります。

あじさいウォークでは、地域の住民がつくった農産物を直売市で販売しています。住民と観光客との交流の場になったり、出展者の生き甲斐になったりしています。

水あげよう

東屋の整備
あじさいの郷公園の整備

お茶を!

お年寄りでも歩きやすいよ

手すりの設置
街道のカラー舗装

町内のいろいろな場所に、ミニあじさい街道やコスモス畑ができるなど、花いっぱい運動が拡大していきます。

仁ノ花街道

菊の森

最近元気がないの

あじさいのこともっと考えなきゃいけなかったね

いずれ新あじさい街道も

まちの田園風景を守るため、新たなあじさい街道を計画しています。これにより、将来にわたって美しい風景を保全していくことを目指します。

戻すぞ!!

昔のような風景に

しばらく前から、あじさいの元気が少しずつなくなってきました。

診てみましょう

我々も協力します

高知市・春野町合併

処方箋

樹木医に相談します。カラー舗装により、土の部分が少なくなってしまっていることや、日射が強すぎるなどが原因と考えられました。

住民が中心となり、行政も協力して、かつてのあじさいの風景を取り戻そうと動き始めています。まちの宝物として未来へと伝えていくためには、ここが頑張るところです。

□ 景観まちづくりの3原則からみた成功のポイント □

原則1 《地域性》 歴史・文化・産業・意匠・構法・素材などの地域資源の再発見

● 地域農業を支える用水路に着目した花植え（景観づくり）

・あじさい街道は、老人クラブの数人が用水路沿いに十数本のあじさいを植えたことに始まります。用水路は、地域の農業を支える重要な施設であり、地域の人たちの暮らしに密接な関わりのある空間です。用水路が、暮らしに根づいた親しみのある場所であったからこそ、それに沿って自分たちであじさいを植えたいと思いつくことができ、また、長きにわたって手入れを継続できたことにつながっています。



用水路を彩るあじさい

- >>地域の暮らしに密接な関わりのある空間で景観まちづくりを行うことは、取り組みやすい上に、地域の人たちに景観まちづくりの進展や効果が見えやすいというメリットがあります。
- >>また、暮らしに身近であるがゆえに、景観まちづくりが継続的に行われれば、地域に根ざした個性として人々に広く認識されること（まちの個性づくり）も期待できるでしょう。

● 景観まちづくりと連携した地域産物の直売市

・あじさいの花が美しいシーズンに催される「あじさいまつり」や「あじさいウォーク」等のイベントと連携して、地域の農産物等の直売市が行われています。景観まちづくりの効果が来訪者数の増加という形で現れ、それが小規模ながら地域産業の活性化や経済循環にも伸展しています。イベントに参加する人が増えれば増えるほど、地域の産物に触れる人も増える格好です。

・あじさいの花を丹精して育てること、それを鑑賞し楽しむこと、農業の振興や農産物のPRを図ることなどが、うまく連携しています。出展者の生きがいにもなっています。



あじさいまつりに合わせて開催される直売市

- >>景観まちづくりの効果のひとつは来訪者（観光客）の増加です。それを地域の産業や経済循環の活性化と結びつけ、相乗効果を期待する視点から、景観まちづくりの展開を検討することもできます。
- >>また、直売市のような機会は、地元の農業者や住民と観光客等との交流や、出展者にとっての張り合いある楽しみや生きがいにつながる効果も期待できます。

原則2《推進体制》 早期からの適切な行政・市民・専門家のコラボレーション

●住民の自主的な参加によるあじさいの管理

- ・住民による花植えに始まったあじさい街道は、水やりや病害虫の防除、剪定などの日常的な管理は老人クラブと自治会の自主的な取り組みにより行われています。イベントの前後の時期には、地元の高校も掃除や剪定作業に協力しています。

- ・用水路沿いのあじさいの魅力が浸透するのにつれて、他地区においてもあじさいやコスモス等の植栽が進むなど、地域全体での花いっぱい景観まちづくりが進展しています。

>>持続的な景観まちづくりとするためには、地域の人たちが楽しみながら主体的に参加できることが大切です。

>>住民たちが手がけた景観まちづくりの成果には、他地区の住民等に対して、自分たちでも同様の取り組みにトライしてみようとする動きを誘発する効果があります。

●あじさい街道の快適性を高める公共空間の整備

- ・住民による主体的なあじさいの植栽（あじさい街道の形成）が進展するのを受け、行政もあじさい街道の魅力を高める公共空間の整備を行っています。具体的には、歩きやすさや安全性を高めるための用水路沿いの道路のカラー舗装や手すりの設置、憩いの場となる東屋やあじさいの郷公園の整備などを行っています。



イベント時には休憩所として活用される東屋

- ・このような公共空間の整備が、イベントの開催や観光の推進にも役立ちます。

>>住民等による景観まちづくりとうまく連動した身近な公共空間の整備は、景観まちづくりに取り組んでいる住民等に達成感や推進力を与えます。また、景観まちづくりと関連づけて整備された公共空間に対しては、住民らの愛着も深まりやすいと考えられます。

●あじさい街道を将来にわたる宝物として維持するための取り組み体制

- ・近年、あじさいの花の勢いが衰えてきてしまいました。樹木医の診断によれば、あじさいの根もと近くまで行った舗装により土が少なくなったことや、夏の照り返しによる輻射熱など、生育環境が厳しくなったことに一因がありそうです。水面にこぼれんばかりのあじさいを、ふるさとの風景として何世代にもわたって伝えていくための正念場という認識のもと、地元が一致団結した体制（協議会）をつくり、回復に向けて取り組もうとしています。

>>景観まちづくりでは、地域の景観を、長く受け継ぐべき大切な資産と認識して、守り、育てる意識が重要です。場合によっては危機意識などもバネにして、様々な立場の人が協働で取り組む体制づくりと地道な取り組みが欠かせません。

原則3 《実現性》 計画の実現のための資金や手法、運営等に対する細やかな配慮**●「あじさいまつり」、「あじさいウォーク」の開催**

- ・あじさいの植栽や管理等の地道な景観まちづくりが進展し、徐々に風景としての魅力を高めてきたのを受け、開花シーズンに「あじさいまつり」や「あじさいウォーク」といったイベントが継続的に行われるようになっていきます。

>>美しい景観を備えた空間をうまく活用するソフトを検討することが有効となります。例えば、本事例のように、景観の魅力を活用したイベント等を行うことにより、イベント参加者（来訪者）が楽しめるというだけでなく、景観の魅力を広く伝えたり、景観まちづくりに関わっている人たちの励みとできるなど、多面的な効果が期待できます。

●景観まちづくりを活かした原風景づくり：新あじさい街道計画

- ・老人クラブの人たちがあじさいを植え始めてから30年。地道な景観まちづくりの積み重ねは、できあがった景観としても、その過程の活動としても、地域の大きな財産となっています。
- ・その延長線上に、田園や里山、谷津田の風景にあじさいの彩りを添える活動により新しい原風景をつくり上げ、美しい田園風景を将来にわたって保全しようという「新あじさい街道」計画が検討されています。今あるあじさいも大切に守りながら、さらなる発展的な風景づくりを目指しています。

>>長く続けられてきた景観まちづくりの取り組みや考え方を、行政計画も含めた地域づくりのコンセプトとして取り入れることにより、地域づくりやその計画をいっそう住民に身近な実現性のあるものとすることができます。